

マタイ 6 章 25-34 節

「感謝して食べること」

毎年 11 月第 4 木曜日は、収穫感謝日です。その歴史は今から 400 年前にさかのぼります。当時のイギリスは、英国国教会が国教として定められていましたが、そのことをよく思わない人たち(清教徒)が自分たちの信仰の自由を求めて、「メイフラワー号」という船に乗り、アメリカに渡りました(ピルグリム・ファーザーズ)。ようやくアメリカにたどり着いても、飢えや寒さで約半数が亡くなりました。そんなピンチの時、先住民ネイティブアメリカンの首長が、生活のあらゆることを教えてくれました。アメリカに移住して 2 年目の秋、その土地で最初の収穫を得ることができたのです。自分たちの命が助けられ、作物が与えられ、生活が守られていること。その全てのことに、感謝をささげる礼拝が守られたのです。これが収穫感謝礼拝の始まりです。

今日の箇所でも何度も繰り返されている「思い悩むな」という言葉。これは、「思い煩う」とも訳せる言葉で、意味は「心がいろいろなものに裂かれて乱れること」です。生きるためには、食べ物・仕事・財力・知力・体力が必要です。先行きを案じていろいろと思い悩み、でき得るかぎりのことを果たしていくことは当然ではないでしょうか。しかし問題は、この思いが悲観的になり、心配になり、「思い悩み、思い煩い」となって、身を擦り減らすまでになって、希望や喜びが取り去られていくような状態になった時です。イエスさまは、「自分の命のことで、体のことで、明日のことで思い悩むな」と言われます。あなたの命も、体も、明日という時も、神から与えられたものではないか。あなたにふさわしく与えられた「命」であり、「体」であり、「時」である。この「命、体、時」にとって必要なものを神がご用意しないはずがない。このまま放っておけば、この「思い悩み、思い煩い」がその「存在」そのものを滅ぼしてしまうまでになる。だから、「何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、思い悩むな。明日のことまで思い悩むな。」と言われているのです。イエスさまは思い悩む私たちの願い、祈りを拒んでおられるのではありません。私たちの「命、体、時」は、私たちの所有物ではありません。神に仕えるために託されたものです。自分のために蓄えておくことのできないものです。その神の力と知恵と御心に委ねる信仰に立つなら、「思い悩み」を克服することができるのではないのでしょうか。

ピルグリム・ファーザーズたちも、アメリカに移住した時、毎日「何を食べよう」と必死に考えていたことでしょう。そして何度も神さまに祈り、苦しい悲しい、わびしい思いをしながら過ごさざるを得ませんでした。「明日のことまで思い悩むな」と今日の聖書の最後に書かれているのは、ただ悩んで自分の命をないがしろにしないで、とにかく神さまに頼りなさいと伝えたかったからです。ピルグリム・ファーザーズたちも熱心に祈り、ネイティブアメリカンの首長という助け手、パートナーを得ました。必ず、神さまは私を見捨てず、備えてくださる。いのちを守るために、必要なものを与えてくださる。だから、先のことを憂えているより、ただ神さまに感謝をささげ、祈りなさい、とイエスさまは教えてくださいました。多くの命、多くの方によって、私たちの食べ物が与えられています。そしてその食べ物によって、私たちの命が育まれています。決して一人では、食べることも、命を守ることもできません。そのすべてに神さまの恵みが与えられていることに感謝したいと思うのです。そして食事を食べる時、多くの命をいただいていることを覚えて、神さまに感謝して食事をしていただければと思います。